

24日 水曜

列王 I



9:1 ソロモンが、【主】の宮と王宮、および、ソロモンが造りたいと望んでいたすべてのものを完成させたとき、
9:2 【主】は、かつてギブオンで現れたときのように、ソロモンに再び現れた。
9:3 【主】は彼に言われた。「あなたがわたしの前で願った祈りと願いをわたしは聞いた。わたしは、あなたがわたしの名をとこしえに置くために建てたこの宮を聖別した。わたしの目と心は、いつもそこにある。
9:4 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心と正直さをもってわたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、
9:5 わたしが、あなたの父ダビデに『あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』と約束したとおり、あなたの王国の王座をイスラエルの上にとこしえに立たせよう。
9:6 もし、あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしに背を向けて離れ、あなたがたの前に置いたわたしの命令とわたしの掟を守らずに、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、
9:7 わたしは彼らに与えた地の面からイスラエルを断ち切り、わたしがわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。イスラエルは、すべての民の間で物笑いの種となり、嘲りの的となる。
9:8 この宮は廃墟となり、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れてささやき、『何のた

めに、【主】はこの地とこの宮に、このような仕打ちをされたのだろう』と言う。

9:9 人々は、『彼らは、エジプトの地から自分たちの先祖を導き出した彼らの神、

【主】を捨ててほかの神々に頼り、それを拝み、それに仕えた。そのため【主】はこのすべてのわざわいを彼らに下されたのだ』と言う。」

主がソロモンに与えた、これらの警告は現実的なものでした。そのごソロモンは、政略結婚などによって多くのそばめを持つようになり、そこから異教と偶像がイスラエルに入り込んでしまったのです。まさに「ほかの神々に仕え」ということが起きたのです。

ですから後の王たちも、程度の違いこそあれ、ここにあるわざわいを受けなければならず、最後にはイスラエルは滅ぼされてしまったのです。

このことはさまに私たちの人生にも起こり得ることです。神の恵によって幸いを歩みながら、神をないがしろにして、神いがのものを主としてしまう生き方です。そうならないように、この主からの戒めを心に刻みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

